

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	草津市立常盤小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	
児童数	52	71	72	62	69	63	1	390	21

研究の概要

1. 研究主題

学ぶことの喜びや価値を見つけることができる子どもをめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- * 実施学年及び教科を選択した理由を記すこと。
- ・ 4年生・算数科
児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
 - ・ 5年生・算数科
児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
 - ・ 6年生・算数科
この学年の児童は、少人数指導としての当該教科に関する研究実績があるため
 - ・ 5年生・総合的な学習の時間
学校として、当該教科に関する研究実績があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「学ぶことの喜びや価値を見つけることができる子どもをめざして」 研究の見通し</p> <p>* 少人数指導を中心としてきめ細かな指導の実践研究(基礎・基本) * 総合的な学習の時間「やってみタイム」の実践を通して、問題解決力を養い、解決のプロセスを楽しませる。 * 授業改善に努め、魅力ある授業を具現する。 * 計画性のある「がんばりタイム」の実践を通して「基礎・基本」の充実に迫る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>* 研究の内容 算数科におけるきめ細かな指導の実践について 全学年の算数科における少人数指導の実施 やってみタイムにおける問題解決学習について 追求活動の充実 がんばりタイム(朝の学習の時間)における実践について 毎朝10分(8:30~8:40)、国語科、算数科の基礎的な力の充実を図る。 授業改善 すべての授業での課題を表記する。</p> <p>* 研究の方法 算数科におけるきめ細かな指導の実践について ・ 必要に応じて、単元ごとに習熟度別、課題別に子どもが学習したいコースに分けられる場を設定する。 ・ 自力解決の場を確保し、考えや根拠などを表現できるように指導する。 やってみタイムにおける問題解決学習について</p>
--------	--

- ・課題解決のための追求する時間を十分確保するとともに、子どもたちがどのように解決しているのかをとらえられるようにする。
- がんばりタイムにおける実践について
- ・現学年において、不足な力をとらえて、毎朝10分(8:30~8:40)、その定着に向けて取り組む。

月	火	水	木	金
読書	読書	計算	漢字	スピーチ

授業改善について

- ・すべての授業において課題を明らかにし、めあてをもつことの習慣化を図り、子どもたちの学習に取り組む姿勢の変容をみとる。

平成16年度

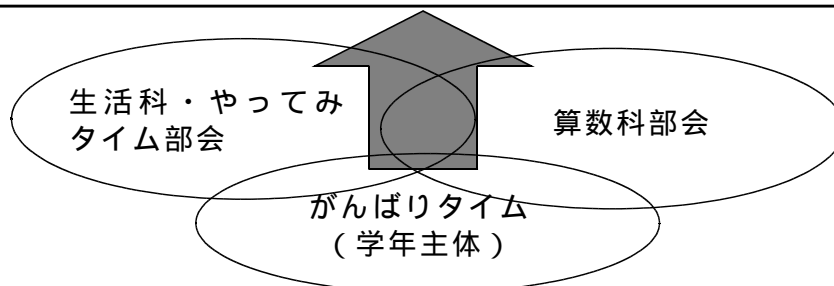
テーマ

- 「学ぶことの喜びや価値を見つけることができる子どもをめざして」
研究の見通し
- * 少人数指導を中心としてきめ細かな指導の実践研究(基礎・基本)
 - * 総合的な学習の時間「やってみタイム」の実践を通して、問題解決力を養い、解決のプロセスを楽しませる。
 - * 授業改善に努め、魅力ある授業を具現する。
 - * 計画性のある「がんばりタイム」の実践を通して「基礎・基本」の充実に迫る。
- 研究の内容・方法
- * 研究の内容
 - 算数科におけるきめ細かな指導の実践について
 - 全学年の算数科における少人数指導の実施
 - やってみタイムにおける問題解決学習について
 - 追求活動の充実
 - がんばりタイム(朝の学習の時間)における実践について
 - 毎朝10分(8:30~8:40)、国語科、算数科の基礎的な力の充実を図る。
 - 授業改善
 - すべての授業での課題を表記する。
 - * 研究の方法
 - 算数科におけるきめ細かな指導の実践について
 - ・必要に応じて、单元ごとに習熟度別、課題別に子どもが学習したいコースに分けられる場を設定する。
 - ・自力解決の場を確保し、考えや根拠などを表現できるように指導する。
 - やってみタイムにおける問題解決学習について
 - ・課題解決のための追求する時間を十分確保するとともに、子どもたちがどのように解決しているのかをとらえられるようにする。
 - がんばりタイムにおける実践について
 - ・現学年において、不足な力をとらえて、毎朝10分(8:30~8:40)、その定着に向けて取り組む。
 - 授業改善について
 - ・すべての授業において課題を明らかにし、めあてをもつことの習慣化を図り、子どもたちの学習に取り組む姿勢の変容をみとる。

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制

学ぶことの喜びや価値を見つけることができる子どもをめざして



研究体制の内容
算数科部会

生活科・やってみタイム部会

がんばりタイム

... 少人数指導を中心として算数科におけるきめ細かな指導の実践研究を行う。

生活科、総合的な学習の時間「やってみタイム」について、問題解決力を養うための実践研究を行う。

... 計画性のある「がんばりタイム」の実践を通して「基礎・基本」の充実に迫る。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

★ 4年生の算数科「わり算」の学習後、アンケートを採ってみた。わり算の筆算の学習において4点満点中、3.68とかなり高いポイントで、好きであると答えている。この理由として考えられることは、個に応じた支援を行えたことがあげられる。自力解決の場面で解決しかけている児童には、「できかけているね」と励まし、つまづいている児童には解決に導けるようにアドバイスを行ってきた。また少人数ということで、子どもたち自身も「わからないときに、すぐに教師に見てもらえるのがとてもいい。」と少人数指導の良さをアンケートに答えている。

同じ単元の事前と事後で算数科の学習は楽しいかというアンケートをとってみた。単元が始まる前に「よくあてはまる」とした児童は15名であったのが、単元を終えたときには23名になっている。少人数ということによって一人ひとりであった声かけをしやすいことが児童にとっても算数科の授業を「楽しい」と感じられていることがわかる。またこの単元では、習熟度別学習を取り入れた。単元のはじめは、数の上での均等グループに分け、同じように学習を進めていき、小テストを行った上で児童の希望による「のびのびコース(基礎・基本)」「どんどんコース(発展)」習熟度別学習に取り組んでいった。2つのコースに分かれていくが、児童の希望によっては移動をしてもよいことにした。発展コースを選択した児童はどんどん問題に取り組んでいき、基礎・基本コースを選択した児童は、自分にあったスピードで教師とともに課題を解決していき、解決できたことにとっても喜びを表していた。

がんばりタイムのある期間において、全校読書週間を設け行った。すべての教師がいろいろな学年に出かけ、読み聞かせをすることを通し、子どもたちの読書の興味の幅を広げていくことができた。

4年生少人数アンケート
わり算
4年生児童30名

項目	回数
算数の学習が好き	3
算数の内容はよくわかる	3
算数の学習はやる気が出る	3
算数の学習ではよく発表している	3
算数の学習は楽しい	3
自分から進んで学習している	3
自分の考えに自信がある	3
気軽に先生や友達に質問できる	3
先生の話をよく聞いている	3
友達のいろいろな考え方を参考している	3
友達の意見をよく聞いている	3
わり算の筆算の学習は好きだ	3
わり算の筆算の内容はよくわかった	3
わり算の筆算では自分から進んで勉強できた	3

算数科の学習は楽しい

時期	よくあてはまる	ややあてはまる	少しあてはまる	ほとんどあてはまらない
事前	15名 (40%)	10名 (27%)	10名 (27%)	5名 (13%)
事後	23名 (58%)	10名 (25%)	5名 (12%)	2名 (5%)

教師による読み聞かせ

2. 今後の課題

課題として見えてきたこと

- ・がんばりタイムの学年間の系統性が定め切れていないこと
- ・やってみタイムで追求する時間を確保をしていたが、子どもたちが自ら発表してみたいと思えるまでに気持ちが高めていくことができきれていないこと
- ・算数科でノートに自らの考えを書こうとする姿が見られるようになってきたが、まだそのことを楽しいことだと感じていないこと

今後の研究に向けて

- ・今年度1年間のがんばりタイムの成果を出し合い、そのことをもとに学年部ごとに読書、計算、漢字、スピーチにおける1年間の成果目標を掲げて取り組む。
- ・生活科を交えて6年間、課題に没頭することができるようにさらに単元構想を練り上げる。また自ら課題を解決したことに対して、友達とともに喜び合えたり、認め合えたりする場をさらに多く設定し課題解決の価値を高める。
- ・やってみタイム、生活科等で自分自身の学びを発表したり、展示したりするなど自分の考えを学年、全児童、保護者、地域の方に表現する場をさらに設定する。
- ・算数科において、さらに自分の考えを書いていく場を設けていくこととともに友達と交流し合って自分の考えを話したり、友達の考えの良さにふれたりすることを通して学習中に発言を多くできるようにする。

学力等把握のための学校としての取組

研究授業に入る前と事後においてアンケートをとる。

- ・単元に入る前と終えたときでの児童の変容を見るため
- ・その学習における興味・関心、児童自らの実感としての理解度

毎時間の学習後に振り返りカードを書く。

- ・振り返りカードを書くことによって子どもたちの学習のあと子どもたち自身の学習の振り返りと学習内容が理解できたかを確認すること
- ・学習が楽しかったか・めあてに対する振り返り

単元に入る前におけるレディネステスト

- ・その単元に入る前にどのくらい力がついているかを見るため
- ・既習事項の理解度

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究成果普及のためのHP作成予定（総合的な学習の時間における単元と取り組み実践例、算数科における少人数指導の取り組み及び研究成果）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無